

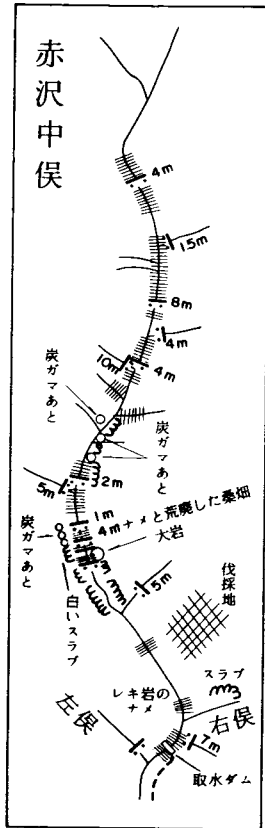
尾根上にははっきりした踏跡があり、
岩掘部落へと続いていた。

(記)

「タイム」 赤沢出合(一三:〇〇)↓
左俣出合(一三:二〇)↓遊行終
了(一四:二〇)

赤沢中俣(金山沢)

一九八二年五月二三日



霧囲気が良くなってきた。しかし滝
はかからず、すぐまた平凡となって
しまった。

一三時三〇分、取水ダムに着く。

ここで沢から上がり、水路ぞいの踏
跡をたどって岩掘部落へ出る。

(記)

「タイム」 下降開始(一一:二五)↓
取水ダム(一二:三〇)↓岩掘(一
三:五〇)

大深谷沢の遊行を終え、尾根上で
二〇分程小休止してから、赤沢の下
降にかかる。一〇分程下って本流へ。
この沢もナメが多いようだ。やが
て四郎の滝。右岸に足形があつて、
この沢にもいろんな往来があつたこ
とをしのぼせる。

八郎の滝は左岸を捲く。ナメと滝

で、今のところ霧囲気は上々である。
期待しながら下っていたら、沢が
いっぺんに平凡になってしまった。
もうあまり期待ももてそうにないの
で、兩岸にかすかに残る踏跡を適当
に使いながら下る。この沢ぞいにも
炭焼き釜跡が多い。桑畑跡もあつた。

一三時一〇分、兩岸が迫り、急に